

日本の古典戯曲である小山内薫による『息子』と、その原案であるハロルド・チャピンの『Augustus in search of a father』のそれぞれを、前者を三条会主宰の関美能留氏が演出を担当し、青井陽治氏による新訳となる後者を同氏によるドラマターグを踏まえ、KPR / 開幕ペナントレースの村井雄が演出を担当し、同時上演致します。

《あらすじ》師走の江戸(12月のロンドン)、夜更けの火の番小屋で老人が火にあたっていた。そこへ一人の男がやってくる。追われている様子の男に老人が話を聞くと、大阪(アメリカ)で働いていたというので、老人は自分の息子も上方(アメリカ)で働いていると語る。男が老人にその息子の名前を尋ねると金次郎(オーガスタス)だと答えた。その名前を聞き、男はこの火の番で九年ぶりに会う自分の実の父親だと悟るが、息子はかたきだと信じている父親に名乗ることが出来ない。そこへ補吏(夜警)がその男を捕らえようとしてくる。捕らえられた金次郎(オーガスタス)だが、補吏(夜警)が父親にこれはお前の息子だと見せようとした途端、縄を切って逃げ出す。やがてひそかに戻ってきた金次郎(オーガスタス)は柱の陰から父親に手をあわせ(祈りを捧げ)去っていく。老人は金次郎(オーガスタス)の無事を願って、その後を見送るのだ。

『息子』

作 小山内薫

演出 関美能留(三条会)

出演 高崎拓郎 G.K.Masayuki 森田祐吏

関美能留◎1972年、埼玉県上尾市生まれ。千葉大学園芸学部中退。千葉大学在学中に演劇活動を開始し、1997年に三条会を結成。以後すべての作品の構成・演出をおこなう。演出作に武田泰淳『ひかりの丘』、三島由紀夫『近代能楽集』、『オリビエ・ヌメア』、『香山修司』、『唐十郎』、『秘密の花園』、『前田司郎』、『むしるのむすね』、『シイタケ』、『ロネとシリモト』、『夏夏夜の夢』、『冬物語』、『曲亭馬琴』、『八犬伝』、『平田オリザ』、『S高原から』、『アリスト』、『失われた時を求めて』(以上三条会)、ザズナリ開場30周年記念公演『うお傳説』などがある。2001年、第2回利賀演劇祭最優秀演出家賞、2005年、第3回千葉市芸術文化新人賞受賞。2006年度千葉大学文学部非常勤講師。2011年より千葉市文化芸術振興会議委員。

『オーガスタス 父を探し求める』

作 ハロルド・チャピン

翻訳 青井陽治

演出 村井雄 KPR / 開幕ペナントレース

出演 陰山泰 / 北川能功 *ダブルキャスト

高崎拓郎 G.K.Masayuki 森田祐吏

村井雄◎目黒区職員を経て、2006年に開幕ペナントレース(現KPR)開幕全シリーズを旗揚げ。以降、全作品の構成・脚本・演出を担当。初の海外公演(2009年アメリカ公演)にて『The New York Times』他、各種メディアより高い評価を得る。2015年、スタートした海外ツアーでは、その「恐るべき俳優達」による現代演劇作品『Unisphere / ナミシヤ』は「本物のアーティスト的な体験」(『Reverence / ナミシヤ』)である、その脚本・演出作品が賞賛される。2016年のCINRA.NETの小林賢太郎さんとの対談「小林賢太郎が惚れ込む『自由』すぎる天才演出家、村井雄の正体」が話題となる。2013年、舞台芸術財団演劇人会議主催利賀演劇祭コンクール奨励賞、2014年、世田谷区芸術ワード「飛翔 舞高田」受賞。



陰山泰



北川能功



森田祐吏



G.K.Masayuki



高崎拓郎

▶2017.12月		▶2018.1月					▶2月						
27	28	11	12	13	18	19	20	25	26	27	1	2	3
水	木	木	金	土	木	金	土	木	金	土	木	金	土
15:30			A	A		B	B		B	B		B	B
19:00		A			A			B			B		

*各日時共に、二作品続けて上演致します。*受付開始、開場は開演の30分前となります。
*「オーガスタス 父を探し求める」では、日程Aには陰山泰、日程Bには北川能功がそれぞれ出演致します。

チケット 前売り ¥3,500 / 当日 ¥3,800 (併設カフェでのワンドリンク含む)

KPR / 開幕ペナントレース 080-2091-9895 <https://www.kpr.tokyo/>
● kpr.japan@gmail.com
● <https://www.quartet-online.net/ticket/produce1>

前売発売
11月27日(月)
10:00より



照明:沖野隆一 衣裳:小林日和 美術:竹邊奈津子 舞台監督:森田祐吏 票券:伊藤沙耶 宣伝美術:秋澤一彰 プロデューサー:高崎拓郎
協力=株式会社カンパニー・ワン 三条会 石井光三オフィス RYU CONNECTION 佐々木裕子 キャラリエフ・Izumi 秋澤デザイン室
企画・製作=KPR / 開幕ペナントレース NAPPOS UNITED

助成=芸術文化振興基金助成事業



Gallery éf

〒111-0034 東京都台東区雷門2-19-18
Tel.03-3841-0442
<http://www.gallery-ef.com/>

江戸通り(国道6号)沿い雷門郵便局斜め前

- A [都営浅草線・浅草駅]..... A5出口より右2階
- G [銀座線・浅草駅]..... 4番出口より徒歩3分
- T [東武線・浅草駅]..... 徒歩2分

*駐車場はありません。公共駐車場をご利用ください。

【劇場紹介】小山内薫の『息子』は、大正12年(1923)3月に帝国劇場で初演を行ない、原案であるハロルド・チャピンの『Augustus in search of a father』は1910年1月30日にロイヤル・コート劇場で初演を行っています。これら近代と呼ばれる、明治から昭和初期に作成された作品を上演するにあたり、Gallery éfの土蔵での上演は当時の空気をそのまま宿した特別な劇空間になると考えます。関東大震災、東京大空襲の猛火を避け、149年間この浅草の地に有り続けるこの土蔵は、劇場でセットをどんなに作りこんでも作り出せない、当時の記憶が建物に刻まれています。また、小山内薫による『息子』がハロルド・チャピンの『Augustus in search of a father』の翻訳作品である事実がほとんど知られていないこと、そして小山内薫以降誰も翻訳していないという現状に焦点を当て、このたび青井陽治氏による新翻訳という形であらためて『Augustus in search of a father』を世に出そうという企画意図もご紹介します。さらには本企画を通じて、浅草にこんなに美しい土蔵が現存していることを伝える一端を担えるのではないかと考えております。

Augustus in search of a father

村井雄さんと青井は、実際、親と子ほど歳が離れている。二人が、『息子』とその原作である『オーガスタス 父を探し求める』を同時上演しようというアイデアを最初に話した日、青井は嬉しそうに帰って来た。『オーガスタス 父を探し求める』は、青井の最後の翻訳作品となってしまう、自ら演出することは叶わなかった。しかし、演出家として『息子』のような存在の、村井雄さんに演出を引継いで頂けることを、「父親」のような気持ちで、青井が見守っているはずだ。

青井陽治マネージャーカンパニー・ワン土屋誠

